

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12 章 38～42 節>

①見ることと、聞くこと、読むこととの違いは？

「ラジオ深夜便」を聞きながら考えたことです。ラジオの聞き手は話し手と同じ時間をかけて聞かなければなりません。テレビですと、パッと目に入る一場面で色んなものを一時に把握できます。しかし、それはどれだけ深く理解したかとは関係ありませんし、テレビは見る者にゆっくり考えさせる暇を与えず、関心を無理やり次のことに移させるとも言えます。これが本になると、さらにその差は広がります。本は、読み手が読むのを途中で中断し、今読んだ所を思い巡らすことができるからです。私は映像も好きですが、テレビや映画は見た後、意識的に思い巡らす時間を取らないと、深めることができないで終わってしまいます。見終わった後で思い巡らす時間を持つなら、テレビも映画も深く考えるための有益なツール（道具）だと思っています。「(しるしを) 見せろ」(38)と求める者たちと、「聞く」(41, 42)ことを求めるイエス様の違いを思いながら、ここから何を「読み」取るかが大事なのだと思わされました。

②しるしはイエス様の死と復活の出来事のみ！

イエス様ははっきりと、ご自身の死と復活以外にしるしは無い、と言われました(39-40)。だとするなら、私たちがすべきことは、この出来事に神様が込められた意味を聞き取ろうと本気で取り組むことです。その方法は、自分の頭で考えるのではなく、聖書が何と告げているのかに耳を傾けることです。聖書は告げます、「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました」(ローマ 3:25)「イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義とされるために復活させられたのです」(ローマ 4:25)。

③信仰を持つ決断をすることは、命がけの冒険の旅に出ること！

「ソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来た」シェバの女王をイエス様は評価されました(42)。見えない神様を、聖書の御言葉を聞くだけで信じることも冒険かもしれません。しかし、それはその内容があまりにも驚くべき恵みなので、聞いて信じるしかない冒険なのです。思い切って歩み出すに値する冒険なのです！